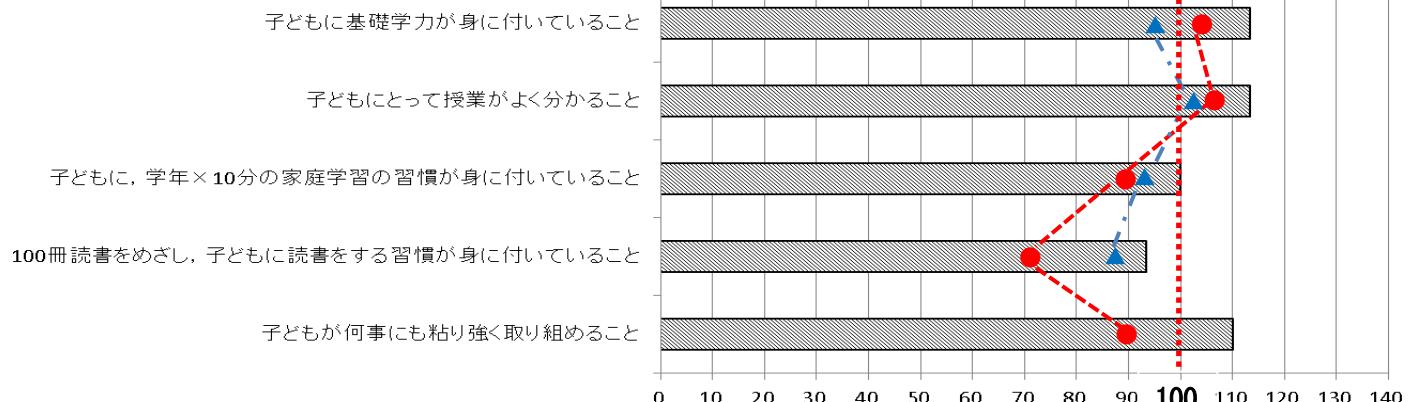


梅北だより

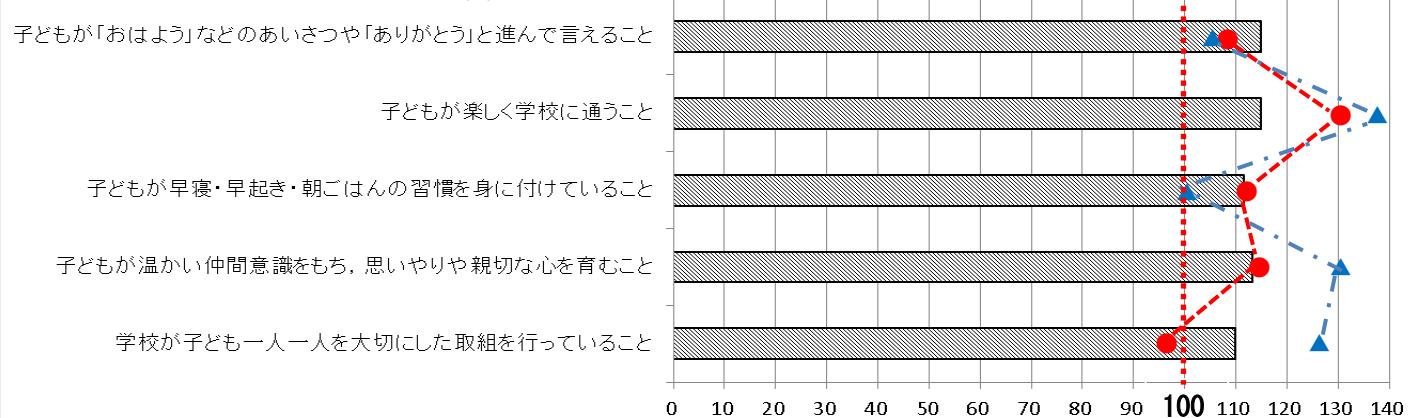
前期学校評価特別号

平成27年10月9日発行
京都市梅津北小学校
校長 嶋田 勤

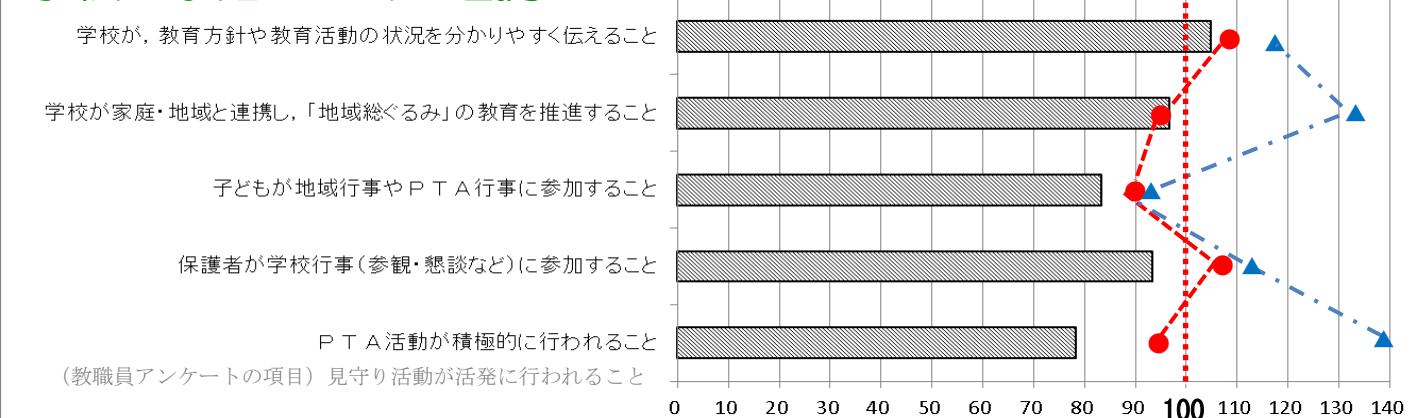
確かな学力



豊かな心・健やかな体



学校・家庭・地域の連携



先日は学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者アンケートや児童アンケートの集計し、100 ポイントを目標数値としてグラフ化してみました。ぜひご一読いただき、今後もさらに学校と家庭が連携して本校児童に力をつけていきたいと思っています。

グラフの見方

重要度
(保護者アンケートより)

実現度
(保護者アンケートより)

実現度
(教職員アンケートより)

家庭学習の習慣を身に付けよう

「確かな学力」を身に付けることは、子どもたちの進路を実現するために大変重要なことです。保護者アンケートの結果からも「基礎学力が身に付いていること」「授業がよく分かること」に対する重要度は当然ながら高くなっています。

しかし、実現度はどのような結果となっているかというと、保護者・教職員のどちらもまだ伸びしろがあると感じていることが分かります。それぞれの教師が、子どもにとって分かりやすく、学んだことが身に付くような授業を行うことは当然のことですが、家庭学習の習慣を付けていくことも、非常に重要となっていきます。



学校が大好き！！

「子どもが楽しく学校に通うこと」についての実現度は、保護者・教職員とも非常に高いポイントとなっており、うれしく思います。また、子どもが温かい仲間意識をもち、思いやりや親切な心を育むことについても高評価となっています。学級集団を基本としながら、子どもたちが、相手のよさを見つけようと努めたり、互いに協力し合って1つのことに取り組むような活動を重視したりして、更にお互いのつながりや理解が深められるようにしていきたいです。



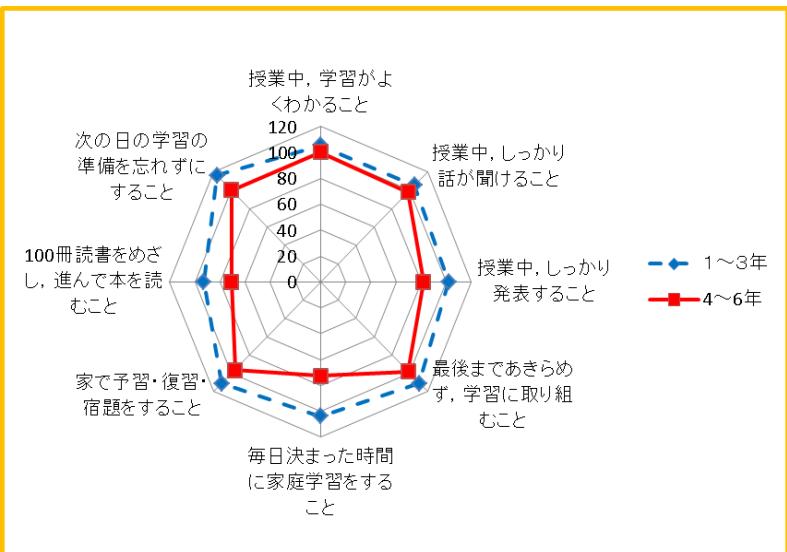
「学校」「家庭」「地域」の連携

登下校での見守り活動では地域の方に大きなご支援をいただいています。児童・生徒が事件に巻き込まれたり、自然災害が起こったりする度に地域のつながりの必要性が話題に上がりります。地域の方に子ども一人一人のことをよく知っていただくことで支えていただくこともあります。地域やPTA活動への積極的なご参加をよろしくお願いします。

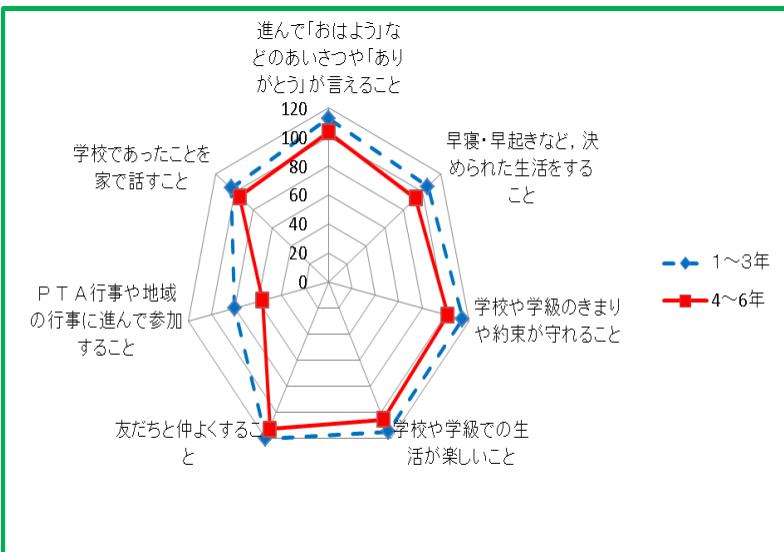
学校運営協議会理事の方々からのご意見

・・・・・児童ふりかえりシートより・・・・・

★学習にすること



★生活や規律にすること



児童ふりかえりシートは、1~3年生と4~6年生に分けて集計しました。それぞれの項目で「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」「わからない」を点数化し、目標とする数値を100としてグラフ化しました。

子どもたちは、「授業中、学習がよく分かること」「最後まであきらめず学習に取り組むこと」に関しては低学年・高学年ともほぼ「できている」と感じているようです。一方、本校でこれまで継続して大切に取り組んできた「授業中、しっかり発表すること」については高学年で課題が見られます。子どもたちが自分の考えを交流し合い、考えを深めたり、新たに気付いたりしながら学習を深めていくような力を今後も継続していく必要があると考えています。

読書については、保護者アンケートの実現度と同様に児童アンケートでも大きく落ち込みが見られます。

【学校では】

- 授業で児童が勉強の得意・不得意に関わらず、発言したくなるように、活動や質問の仕方を工夫したり、発表の機会を確保したりします。
- 家庭学習の習慣化に向け、高学年では宿題プリント等に家庭学習の開始時刻を記すように声をかけ、個々の様子を担任が把握して家庭学習への支援に生かします。

【ご家庭では】

- ゲームを置いて、読書や宿題ができる環境になるよう、保護者の方も一緒に座って宿題をみていただいたり、テレビを消したりしてみてください。



・アンケート集計結果は、学校教職員の努力の表れだと思います。学校の教育は、「どの子も伸びる」ことに確信をもって基礎学力の向上と仲間意識の向上を目指してほしいものです。

・楽しく学校に通えて、友達との時間を大切にしていることはとてもよいことだと思います。

・あいさつについて、グラフでは実現度は高くなっていますが、学校内外の子ども達や集団登校の様子を見ているとあまりできていないように思います。

・家庭でも時間を決めて宿題や読書をしてほしい。ゲーム、スマホの依存症にならないよう家庭でルールを決めるることは大切です。

・近年、地域やPTAへの関わりがどんどん希薄になっているのは残念です。核家族化によるものでしょうか。自分にプラスにならない、または、プラスの効果が即物的でないとプラスと考えられない大人から生まれ、育てられる子どもは不幸です。

生活や規律にすることについては、「PTAや地域行事に進んで参加すること」以外は、低学年ではほぼ目標値に到達しています。「学校や学級のきまりが守れること」や「学校や学級での生活が楽しいこと」「友達と仲よくすること」についても、これまでの取組の成果が表れているのではないかと考えています。今後もさらに一人一人に心の通った指導をしていきたいと思っています。

ただ、高学年になるにつれ、「早寝・早起きなど、決められた生活をすること」について数値が下がっています。他の調査（全国学力・学習状況調査や生活調べ）から、子どもたちは、ゲームやテレビ視聴の時間が大変長くなっていることが明らかになっています。このことは、勉強時間が確保できなかったり家族との団らんや会話が十分でなかったり、就寝が遅くなったりしていることの原因の1つになっているのではないかでしょうか。

【学校では】

- 生活調べの結果から、自分の生活を見つめ直し、規則正しい生活が送れるように、日々の生活プランを考えさせます。
- あいさつの必要性について子どもたちが話し合ったり考えたりします。

【ご家庭では】

- ゲームやスマホの約束ごとを一度見直していただき、決められた時間になったら保護者が預かり、規則正しい生活が送れるようにすることが必要です。
- 学校での出来事、勉強のこと、世の中の出来事のことなどを話題に、子どもとのコミュニケーションの時間を意識的に取るようにしてはいかがでしょう。